

株主提案書「I.提案する議題」および「II.提案の内容及び提案の理由」について

I. 提案する議題

株主価値向上に向けた中期経営計画策定に関する定款一部変更の件

II. 提案の内容及び提案の理由

〔提案の内容〕

現行の定款に以下の章及び条文を新設する。

第8章 中期経営計画

(株主価値向上に向けた中期経営計画)

第39条 当社は、毎事業年度、当該事業年度を初年度とする3事業年度の中期経営計画を策定する。

2. 前項の中期経営計画における最終事業年度の数値目標の達成状況については、毎事業年度、これを開示するものとする。

3. 第1項に定める中期経営計画には、以下の事項を含むものとする。

- (1) 最終事業年度における自己資本利益率（ROE）の目標
- (2) 最終事業年度における営業利益及び当期純利益の目標
- (3) 最終事業年度における投下資本の目標及び内訳
- (4) 当該計画の策定時において当社が認識する加重平均資本コスト（WACC）
- (5) 前号に定める WACC 算定時における株主資本コストの前提条件
- (6) 3事業年度合計の資金配分（キャピタルアロケーション）の方針
- (7) セグメント別の投下資本利益率（ROIC）の実績値及び最終事業年度における当該指標の目標値
- (8) 前号に定める ROIC の実績値及び目標値の算定に用いられた投下資本の前提条件

〔提案の理由〕

本提案は、現行の中期経営計画を見直し、株式会社東京証券取引所が推進する「資本コストや株価を意識した経営」の実現に向け、当社に必要となる定量目標を定めるものです。現行の5か年の中期経営計画は開始から2年が経過し、「概ね計画通りに進捗している」として平井氏が新社長に就任しました。しかし、当該計画にはセグメント別利益目標等すら開示されておらず、その進捗を外部から客観的に検証することは困難です。本来、中期経営計画は株主価値向上に向けた施策・目標を示し、その進捗が客観的に検証可能であるべきです。しかし現状では、進捗判断が経営陣の自己評価に依拠しています。そこで、平井氏による新体制のもと、資本コストを踏まえた客観的指標に基づく透明性の高い経営を実現し、その進捗を外部から検証可能とするため、定量目標の設定および開示を求めます。



キャンペーンサイト

以上